

国立大学法人東京外国語大学
学長 立石博高 殿

監事意見書

私ども監事は、平成24年度（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで。以下「本年度」という。）における国立大学法人東京外国語大学の業務執行について監査いたしました。その結果につき、以下の通り報告いたします。

1 監査方法の概要

監事監査計画書に定めた本年度の監事監査の方針並びに職務の分担等に従い、役員会その他の重要な会議に出席するとともに、重要な決裁書類等を閲覧した。そして、役員等から業務運営の報告を聴取し、各部門責任者から業務処理の状況を聴取するとともに、本部ならびに主要な部門において業務及び財産の状況を調査し、書面・証憑書類の査閲等によりこれを確かめた。さらに、内部監査室との連携をより緊密にして、監事機能の充実に努めた。また、会計監査人から報告及び説明を受け、財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書、国立大学法人業務実施コスト計算書、利益の処分に関する書類及び付属明細書。以下、「財務諸表」という。）、決算報告書につき検討を加えた。

2 監査の結果

業務の執行状況は、国立大学法人法の目的と中期目標に照らし、中期計画、年度計画に基づいた適正かつ効率的な運営に努めており、その他法令に違反する重大な事実は認められない。

業務の実績に関する報告書は、実施状況を正しく示していると認める。会計監査人あずさ監査法人の監査の方法及び結果は、相当と認める。

財務諸表（利益の処分に関する書類を除く。）は、当法人の財政状態、運営状況、キャッシュ・フローの状況及び国立大学法人業務実施コストの状況を適正に示していると認める。

利益の処分に関する書類は、法令に適していると認める。

決算報告書は、当法人の予算区分に従って決算の状況を正しく示していると認める。

なお、役員と当法人との利益相反取引並びに役員による当法人以外の業務の実施は認められない。

平成25年6月18日

監事

長谷川 裕司

監事

寺 前 隆